

千葉県医師会 第4回終末期医療に関するシンポジウム

「高齢者の終末期の医療およびケア・死生観を考える」に参加して

平成28年1月23日(土)今回で4回目となる標記のシンポジウムが、医師・看護師・介護職・コメディカル・一般市民等を対象に千葉県医師会館において開催されました。

今回はエンドオブライフ・ケア(死をめぐる時期になされる支援と、医療ケア)がテーマで、介護関連に関わる当業界にも必要な情報と考え、昨年に引き続き参加しましたので報告いたします。

司会進行 千葉県医師会理事 梅村孝子先生

開会の挨拶 千葉県医師会会長 田畑陽一郎先生

* 基調講演

座長 千葉県医師会副会長 土橋正彦先生

演題 「死生観と臨床倫理-エンドオブライフ・ケアをめぐる-」

講師 東京大学大学院 人文社会系研究科

死生学・応用倫理センター上席講座特任教授 清水哲郎先生

* シンポジウム

座長 千葉県医師会介護保険等検討委員会委員長 玉本弘次先生

千葉県医師会介護保険等検討委員会副委員長 平野 清先生

「終末期医療の考え方」

九十九里ホーム病院副院長

田中方士先生

「医療コーディネーターが勧める賢い医療のかかりかた(高齢者緩和ケア)」

東京大学大学院医学系研究科医療安全管理学講座

特任研究員 水木麻衣子先生

「いのちの引継ぎとケア-宗教者の立場から-」

浄土宗心光院 戸松義晴住職

以上の講演及びシンポジウムの中で生と死の考え方に関して、死は生の最終部分であり人生の最終章である、そして終末期医療の意思決定プロセスにおける厚労省のガイドライン及び、日本老年医学会のガイドラインの説明、そして延命優先かQOL優先かの選択、更に緩和ケアから安楽死までも議論を発展させ、最後まで尊厳ある「生」を生きるためにはどう考えを進めたらよいか、そしてそれを支える病院での緩和ケアの現況と、患者の立場からでの賢い医療のかかり方、そして今後の課題、さらに宗教者の立場での死生観等、多義に亘り討論され、今後も継続し議論の場を設けることを確認し、シンポジウムは終了しました。

広報員 渡辺 勇



シンポジスト



聴講風景